



ASPIRE
先端国際共同研究推進事業

2024年度 ASPIRE単独公募*のご説明

*旧称アライメント公募

令和6年3月22日(金)



科学技術振興機構

国際部 先端国際共同研究推進室 ASPIREグループ
箕輪、豊福、橋本

先端国際共同研究推進事業（ASPIRE）とは

ASPIREの目的



- 世界のトップ科学者層とのネットワーク構築
- 未来を決める国際的なトップ研究コミュニティへの参画
- 将来持続的に世界で活躍できる人材の育成

重要分野における科学技術先進国との国際共同研究の中で
1課題あたり最大5億円規模で国際ネットワーク構築・
国際頭脳循環に資する若手研究者育成等に関する活動を
支援します。

先端国際共同研究推進事業（ASPIRE）とは

Top Down

文部科学省

分野

AI・情報
バイオ
エネルギー
マテリアル

量子
半導体
通信

対象国・地域

オーストラリア、オーストリア、ベルギー、
カナダ、チェコ、デンマーク、EU、
フィンランド、フランス、ドイツ、イタリア、
オランダ、ノルウェー、ポーランド、
ポルトガル、韓国、スペイン、
スウェーデン、スイス、英国、米国



国が定める分野、対象国・地域との国際共同研究を通じた
ネットワーク作り等を支援

大学・国立研究開発法人等

ASPIREにおける運営統括・研究主幹



運営統括(PD)：ASPIRE事業全体の責任者
宮野健次郎
(NIMS名誉フェロー)

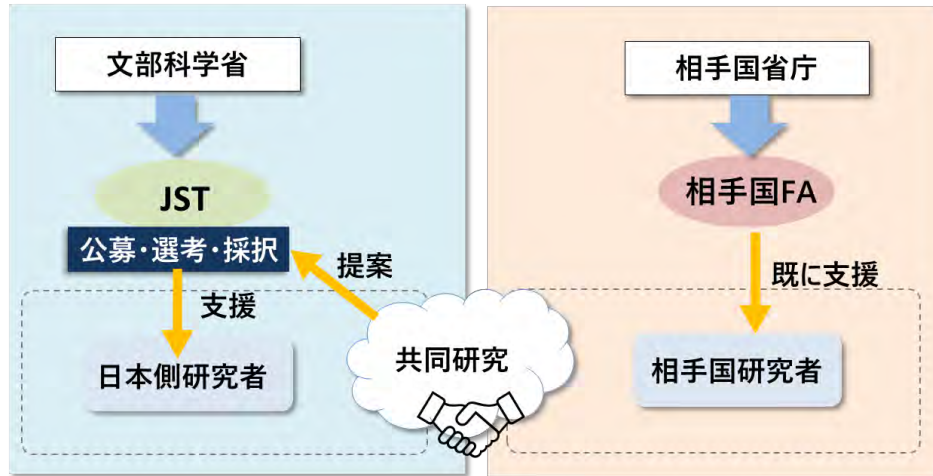
研究主幹(PO):各研究領域の責任者

AI・情報	バイオ	エネルギー	マテリアル	量子	半導体	通信
						
八木康史 (大阪大学 教授)	竹山春子 (早稲田大学 教授)	菅野了次 (東京工業大 学 特命教授)	相田卓三 (理化学研究 所 副センター 長)	川上則雄 (立命館大学 客員教授)	天野英晴 (慶應義塾大 学 教授)	山中直明 (慶應義塾大 学 教授)

※各分野にそれぞれ**アドバイザー(AD)**となる専門家がいます

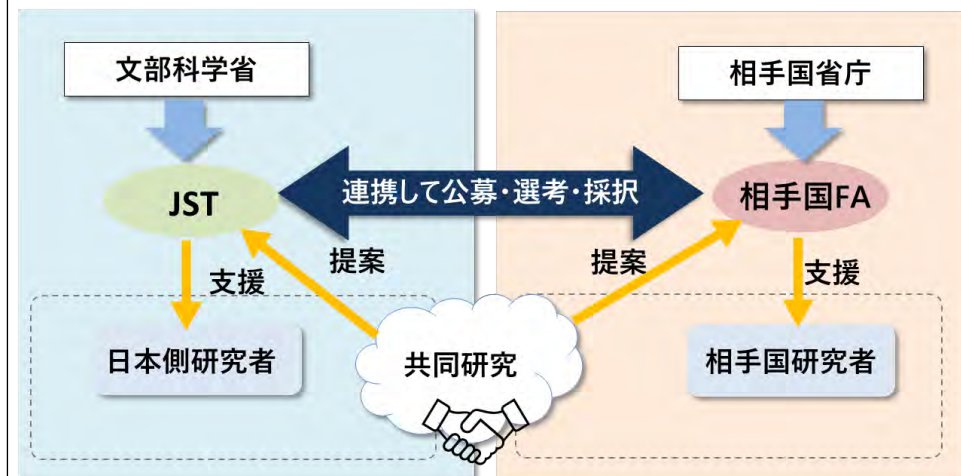
ASPIREにおける公募の種類

単独公募(※)



日本側提案者による提案を募集
 (相手国側研究者は相手側資金配分機関(FA)や研究機関等のプログラムで既に支援を受けている、又は今後支援を受けることが決まっている必要あり)
 ⇒採択後JSTは日本側研究者に資金を配分

共同公募



日本側研究者と相手国側研究者による募集を提案
 ⇒採択後JSTは日本側研究者、相手国FAは相手国側研究者に資金を配分

2024年度ASPIRE公募について

	単独公募		共同公募		
	Top枠	次世代枠	日英	日米	日独
研究分野	7分野		バイオ	バイオ	量子
対象国・地域	科学技術先進国・地域				アフリカ
支援規模	最大3.8億円 ／5年間 (直接経費の 30%にあたる間 接経費を含む 場合、最大5 億円)	最大6,900万 円／3年間 (直接経費の 30%にあたる間 接経費を含む 場合、最大 9,000万円)	最大 ／原 (直 30%にあたる間 接経費を含む 場合、最大 2.34億円)	50%にあたる間 接経費を含む 場合、最大5 億円)	
公募期間	〆切: 5月9日		〆切: 4月16日	〆切: 5月9日	4月開始 (予定)

説明会時の状況にあわせてハイライト部は修正が必要

注意) 2024年度ASPIRE公募内での研究代表者としての重複応募は不可

2024年度ASPIRE公募について

本日の説明



	単独公募		共同公募		
	Top 枠	次世代枠	日英	日米	日独
支援方式	JSTは日本側研究者の活動を支援 (一部、相手国側研究者の活動も支援)		JSTは日本側研究者、 相手国FAは相手国側研究者の活動を支援		
JSTの支援内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日本側研究者について 日本側チームの研究活動に係る費用（旅費、研究費、人件費など） ・相手側研究者について 相手国側から招聘する研究者の渡航費用、報酬、招聘時に日本で発生する研究に係る費用 		<ul style="list-style-type: none"> ・日本側研究者について 日本側チームの研究活動に係る費用（旅費、研究費、人件費など） ・相手側研究者について JSTからの支援は原則なし (相手側FAが支援を実施) 		

単独公募と共同公募でJSTによる支援の内容が異なります

2024年度ASPIRE単独公募

	TopのためのASPIRE (ASPIRE for Top Scientists)	次世代のためのASPIRE (ASPIRE for Rising Scientists)
対象	すでにその分野のトップ研究者として <u>国内・外で卓越した研究実績があり、潤沢な研究資金を得ており</u> 、本事業の目的に合致する国際共同研究をリードしていく研究者	すでに <u>研究自体に必要な資金と独立した研究環境を得ており</u> 、将来のトップ研究者として活躍が期待される研究者
研究分野	AI・情報、バイオ、エネルギー、マテリアル、量子、半導体、通信の7分野	
対象国・地域	オーストラリア、オーストリア、ベルギー、カナダ、チェコ、デンマーク、EU、フィンランド、フランス、ドイツ、イタリア、オランダ、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、 <u>韓国</u> 、スペイン、スウェーデン、スイス、英国、米国	
支援規模	最大3.8億円 (直接経費の30%にあたる間接経費を含む場合、最大5億円)	最大6,900万円 (直接経費の30%にあたる間接経費を含む場合、最大9,000万円)
支援期間	5年間 (2024年12月～2030年3月)	3年間 (2024年12月～2028年3月)

トップ向け枠の統合・名称変更について

	【Top研究者型】	【Topチーム型】
研究体制	 <p>研究代表者が個人として国際的に トップ水準の研究を行う</p>	 <p>連携してチームとして国際的に トップ水準の研究を行う</p>
2023年度公募における名称	Top研究者のためのASPIRE (ASPIRE for Top Scientists)	TopチームのためのASPIRE (ASPIRE for Top Temas)
2024年度公募における名称	TopのためのASPIRE (ASPIRE for Top Scientists)	

トップ向けの枠は1つになるものの引き続きチームとしての研究も対象

相手国側研究者（相手側PI）について

- ・相手側PIは、下記いずれかを満たしている必要があります。
 - （ i ） 相手国側 FA・研究機関等のプログラムで既に支援を受けている。
 - （ ii ） 相手国側 FA・研究機関等のプログラムに申請済みで、
2024年5月末までに採択結果が判明するもの。
- ・対象国・地域における研究者であれば、複数の相手側PIと連携した提案も可能です（ただし、いずれの相手側PIも上記条件を満たす必要あり）。
- ・申請書では相手側PIの実績を記載頂きますが、複数いる場合は人数分記入欄を増やして記載ください。
- ・相手側PIの所属機関からはLoIを必ず入手・提出してください。

単独公募における特徴的な応募要件

2023年度単独公募と同様

国際ネットワークづくり・頭脳循環促進のために、、、

- ①原則1年程度の相手国側での研究実施
- ②相手国側から有望な若手研究者等を招聘
- ③予算の用途制限

単独公募における特徴的な応募要件①

①原則1年程度の相手国側での研究実施

日本側研究チームには相手国へ渡航する**若手研究者等の参加を必須**とし、原則1年程度相手国側で研究活動を実施する必要があります。

渡航する若手研究者等は原則、下記（i）、（ii）のいずれかに該当するものとします。

渡航する研究者の人数に制限はありません。

（i）修士・博士課程（博士前期・後期課程）に在籍する学生であること

（ii）大学、公的研究機関等で研究活動を行う研究者で学位取得後15年程度以内であること

※上記渡航者に加えて、条件に該当しない研究者による渡航も可能です。

単独公募における特徴的な応募要件②

②相手国側から有望な若手研究者等を招聘

提案書の中に、相手国側から有望な若手研究者等を招へいする計画を盛り込む必要があります（基本的には中長期で滞在し、日本での研究や日本の研究者との交流を通じたネットワーク構築等が期待されます）。

※相手国側から招聘する研究者等への渡航費、滞在費、研究費、報酬等を支出することができます。

単独公募における特徴的な応募要件③

③ 予算の用途制限

直接経費総額の7割以上を目安として最先端な研究開発につながる国際的ネットワークの構築・拡大や、国際頭脳循環を促進し国際的なトップ水準の研究機会を若手研究者等へ提供するなど次世代のトップ研究者になることが期待される若手研究者育成を目的として使用するものとします。

例)

- ・トップ研究者・若手研究者間のコネクション強化を目的としたWS開催
- ・相手国側への若手研究者の渡航費、と渡航後に発生する費用
- ・招へいに係る費用（渡航費、滞在費、報酬など）
- ・渡航や交流の実施にかかるコーディネート業務を行うスタッフの人件費等

※研究推進のみを目的とした雇用や物品費等は本費用には含まれません

2023年度公募 不採択課題の傾向及び注意点①

2023年度

渡航・招へい計画について

- ・渡航・招へいを実施することが目的になってしまっている
- ・渡航・招へいの計画について概要の記載しかなく、誰が、どこに、どれくらい、何をしにいくか、等の具体的な情報が不足
- ・実際に渡航できる人材がチームの中にいるのか不明
- ・とくに直近（初年度・次年度）についての具体的な内容が記載されていない
- ・一方的な渡航計画に終始しており、招へいや相手側との相乗効果への施策がない

2023年度公募 不採択課題の傾向及び注意点①

! 渡航・招へい計画について

・渡航・招へいそのものが目的にならないようにしてください。
ビジョン・戦略に基づいて渡航・招へいを計画してください。

- 応募の背景と本申請の強み（日本語）—1頁以内厳守—
Background and strengths of this application —up to 1 page—
※箇条書きなどで簡潔に記載してください。

提案課題を通じて該当分野を国際的にリードできると考える理由	← ← ←
当該分野において提案課題が重要であるとする理由	← ← ←
国際的なネットワーク構築やコミュニティ参画により当該分野の研究が加速度的に進展すると考える理由	← ← ← ←
提案した頭脳循環の促進のための施策が国際的に活躍できる人材の育成に貢献すると考える理由	← ← ← ←

※申請書では新たに、提案を通してどのように日本の科学技術や国際化、若手育成等に貢献できるか、を記載する項目設けています（トップ向けは2023年度公募にあった研究要旨の項目を削除しました）。
渡航・招へい計画はもちろん重要ですが、より大きなビジョン・戦略を実施する上での一つの手段として計画してください。

2023年度公募 不採択課題の傾向及び注意点①

- ・渡航・招へい計画には下記を含めて**具体的な記載**をしてください。
 - ・渡航（招へい）者の実名
 - ・渡航（招へい）期間
 - ・渡航（招へい）先
 - ・渡航（招へい）先での役割

役割 [□]	氏名 [□] (渡航期間 ^{※2}) [□]	機関名および部署名 [□]	役職 [□] (学年) [□]	学位 [□]	専門分野 [□]
研究代表者 [□]	[□]	[□]	[□]	[□]	[□]
主たる共同研究者 ^{※1} [□]	[□]	[□]	[□]	[□]	[□]
渡航する研究者 ^{※2} [□]	[□] (20XX年X月～ 20XX年X月) [□]	[□]	[□]	[□]	[□]
研究参加者 [□]	[□]	[□]	[□]	[□]	[□]
[□]	[□]	[□]	[□]	[□]	[□]
[□]	[□]	[□]	[□]	[□]	[□]
[□]	[□]	[□]	[□]	[□]	[□]
[□]	[□]	[□]	[□]	[□]	[□]
[□]	[□]	[□]	[□]	[□]	[□]
[□]	[□]	[□]	[□]	[□]	[□]

※2024年度の申請書では、日本側・相手側チームメンバー表に渡航・招へい者の実名、渡航期間の記載などが必要です。

- ・日本側からの渡航だけでなく必ず双方向のでの研究者の行き来を計画してください。

2023年度公募 不採択課題の傾向及び注意点②

2023年度

他制度での助成について

- ・一般的な競争的研究費と同じように、他の助成で申請している研究内容と重複してはいけない、との考えから、敢えて別途、研究内容・テーマをけて申請しているケースあり

2023年度公募 不採択課題の傾向及び注意②



他制度での助成について

- ・申請書に他制度での助成状況を記載する項目がありますが、重複を確認する項目ではありません。
- ・基盤となる研究費が確保されているかを確認します。

ASPIREは、すでに実施している基盤となる研究活動に対して、国際ネットワーク構築や頭脳循環に資する活動を実施していくための支援を実施します。

他で支援を受けている助成の研究内容と敢えて研究内容を変える必要はありません。

他制度での助成等の有無（日本語）

Subsidies under Other Schemes

（本項目は、本公募の趣旨に沿った国際ネットワーク構築や国際頭脳循環に資する若手研究者等の育成に関する研究活動を遂行する上で、基盤となる十分な研究資源（研究資金、人的・物的資源等）を備えているかを確認するための項目となります。本提案との研究内容の重複を回避するものではありません。）

【注意事項】

- ・研究代表者および主たる共同研究者が、現在受けている、あるいは申請中・申請予定の国の競争的研究費制度（先端国際共同研究推進事業を含む）やその他の研究助成等（民間財団・海外機関を含む）について、研究課題ごとに、研究課題名、研究期間、役割、本人受給研究費の額、エフォートを記入してください。日本側応募者への応募にあたっての注意事項「第4章 応募に際しての注意事項」もご参照ください。
- ・記入内容が事実と異なる場合には、採択されても後日取り消しとなる場合があります。
- ・本提案課題を必ず1つ目に、次にその他研究課題を本人受給研究費（期間全体、総額）が多い順に記入してください。
- ・必要に応じて行を増減してください。

研究代表者： 氏名 （所属 役職）

番号	制度名	受給状況	研究課題名 (代表者氏名)	研究期間	役割 (代表/分担)	(1)本人受給研究費 ^① (期間全体)		2025年度 エフォート (%)
						(2) # (2026年度 予定) ^②	(3) # (2025年度 予定) ^③	
	2024 ASPIRE FOR TOP SCIENTISTS	申請	提案課題名 (○○○○)	2024.12. — 2030.03.	代表	(1) 千円 ^④	(2) 千円 ^④	
						(3) 千円 ^④	(4) 千円 ^④	
						(1) 千円 ^④		

2023年度公募 不採択課題の傾向及び注意点③

2023年度

申請書の作成について

全体的な傾向として、、、

- ・申請書に記載されているガイドをよく読んでいない
- ・申請書に記載されているページ数を守っていない
- ・文章が冗長でわかりにくい
- ・同じ文章・内容が繰り返されている
- ・具体的な記載がない
- ・文字のフォントが小さい

2023年度公募 不採択課題の傾向及び注意③



申請書の作成について

- ・申請書にはグレーのイタリックで詳細なガイドが記載されています。必ずガイドを読み、ガイドに沿って申請書を記入してください。
- ・各項目にページ制限を設けていますので、制限内で簡潔に、文章、表現や内容の繰り返しを避けてください。

- 日本側 研究代表者の実績（日本語） -5 頁以内-

Achievements of Japan-based Principal Investigator- up to 5 pages

←

- 研究者情報 (Researcher information) ←

(1) URL : ←



※ORCID のリンクを貼り付けてください (ORCID ID をお持ちでない場合は、Publons、Google Scholar (※マテリアル分野においては Google Scholar 不可) の研究者情報ページのリンクを貼り付けてください)。

ガイド

←

(2) 研究代表者の経歴←

※職歴 (年表) を記載してください。大型プロジェクトなどの主催経験があれば職歴の中にあわせて記載してください。

←

←

2024年度単独公募スケジュール

- ・研究提案〆切：**2024年5月9日（木）正午**
- ・書類審査期間：2024年5月下旬～8月上旬
- ・面接審査期間：2024年9月（予定）
- ・審査結果通知：2024年10月（予定）
- ・研究開始：2024年12月（予定）

※面接審査は書類審査を通過された方のみ対象

応募される場合は、

4月9日（火）までにASPIREウェブサイトのアンケートフォームより事前連絡をお願いします（推奨）。

2023年度単独公募 研究活動支援事例

2月 東京 量子分野 中辻課題シンポジウム



3月 広島 半導体&通信分野 キックオフミーティング&ネットワーキング



ASPIRE NEWS   Japan Science and Technology Agency

2024年2月 第2号

ASPIRE NEWS

Adopting Sustainable Partnerships for Innovative Research Ecosystem

電子情報通信学会 総会大会@広島大学
ASPIREのイベント開催します！詳しくは裏面で。
3月5日(火) 13:45-17:00 ワークショップ
3月6日(水) 13:45-18:30 キックオフミーティング
ミライクリエイティブ 多目的ホールにて

総会大会にご参加の方は
 どなたでもお越しいただけます

通信の顔

ASPIRE 研究主幹
 山中 直明氏



通信の顔とは、社会・経済へのバリエーションが豊かに
 大きい通信分野。JSTが新しい人材と最先端ASPIREで通信
 分野のチームワークには研究活動の目的が、研究
 主幹 (Principal Officer) の山崎直明氏、日本の通信分野の
 一歩一歩をリードして、ASPIREは日本の研究や研究
 環境がより良いものになることを目指し、研究活動の推進を
 進捗してグローバルな「顔」を築き、その中心的存在
 になる。最後のチャンスだと言う。

山崎直明氏は「Society」を「人間関係、(互いにかたがた)
 と日本語訳した。これは、社会と経済や産業といった
 インフラや経済のみではなく、人並み以上に、考え、
 論議して移ろふことである、という意味です。さらに、交通の
 基盤が高度の発展をもたらす、交通を促進するサービスを開
 発の促進を企てていきます。通信はグローバルなコミュニ
 ションの中で、国際連携による研究を行い、論文発表のみ
 ではなく標準化やコンソーシアムで結果を出すことが求め
 られます。ASPIREの発展には活発な研究活動は、現
 存のネットワークを活かし国際的なトップレベルに入ること
 ももちろん、ある領域のトップレベルを有ることを目指
 したいと考えています。

山中氏は総務省から博士課程修了後、NICTに入社。電
 気通信学会 (IEEE) の最優秀論文アワードを複数受賞し、
 2010年に日本学術会議の第14回日本学術会議フェローとして、
 電子情報通信学会 総合大会、The IEEE Global Communications Conference
 電子情報通信学会 総合大会、電子情報通信学会 総合大会、
 電子情報通信学会 総合大会、電子情報通信学会 総合大会

2023年度単独公募 研究活動支援事例

3月 東京 EMBO (バイオ分野) とのワークショップ PI杉本先生登壇



3月 東京 通信分野 シンポジウム&ASPIREキックオフ 中尾課題

東京大学 THE UNIVERSITY OF TOKYO

ASPIRE 先端国際共同研究推進事業

参加費無料

東京大学 次世代サイバーインフラ連携研究機構 シンポジウム

「ライフライン」としての次世代サイバーインフラ

日時 2024.3.26 9:50 START

会場 東京大学 本郷キャンパス 工学部11号館 KUMA HALL

13:50~14:50 【第3部】次世代サイバーインフラの創成に向けた海外連携

13:50~13:55 ASPIREにおける海外連携

13:55~14:15 Finlandにおける次世代サイバーインフラの取り組み

中尾 彰宏
東京大学 次世代サイバーインフラ連携研究機構・機構長、工学系研究科・教授

Matti Latva-aho
Director of 6G Flagship
Professor, Centre for Wireless Communications, University of Oulu, FINLAND
Global Fellow, School of Engineering, The University of Tokyo, JAPAN

ご清聴ありがとうございます

Google

JST ASPIRE

すべて ショッピング 画像 ニュース

約 760,000 件 (0.57 秒)

国立研究開発法人 科学技術振興機構
https://www.jst.go.jp/inter/aspire

先端国際共同研究推進事業(ASPIRE)


先端国際共同研究推進事業(ASPIRE) ... 我が国の研究コミュニ
することを旨とする。JSTトップ> 先端国際共同 ...

https://www.jst.go.jp/program/announce_aspire2023

2023年度 先端国際共同研究推進事業 (ASPIRE) 研究提案の ...

1 日前 — JSTは、我が国の科学技術力の維持・向上を図るため、優秀な若手研究者等の科学技
術先進国への渡航や海外からの若手研究者の招聘、トップレベルの国際共同 ...

JST ASPIRE

で検索 

またはQRコードから



https://www.jst.go.jp/inter/aspire/program/announce/announce_aspire2023.html

応募締切 2024年5月9日 (木) 正午

TopのためのASPIRE: aspire@jst.go.jp

次世代のためのASPIRE: aspirers@jst.go.jp